

入選

思いやりすぎずに…

奈良県 富雄南中学校 3年 岩澤 絵梨蒔

2年前、私は父の生まれた国トルコへ行くことになりました。そこは、日本とはまったく文化も言葉も違う国。私は、不安でしかたがありませんでした。学校の始業式、まわりみんなトルコ人。私はそのときトルコ語はわからず、何をすればいいかもわかりませんでした。

教室に戻ったあとの休み時間。私のまわりにはたくさんのクラスメイト。私に何かを伝えようと話してくれますが、言葉では何も理解できず、パニック状態になってしまいました。

そのとき、ひとりの女の子がジェスチャーで私に伝えようと行動してくれました。なんとなくわかった私は、緊張していた心がほぐれていくのを感じました。

その後、「Do you know English?」と英語で話しかけてくれる子もいました。英語は少ししかわからないと答えると、インターネットでトルコ語を日本語に翻訳して、私に日本語で話しかけてくれました。私は、とてもうれしく思いました。

学校の購買で昼食や軽食を購入する際も、私の食物アレルギーについて料理をチェックしてくれたり、料理の味などをトルコ語が未熟な私にもわかるように説明してくれる人もいました。授業中、私が先生に伝えたいことがあっても、うまく伝えられないときはすかさずクラスメイトが手伝ってくれました。

トルコで勉強して一年がたち、私はたくさんの友達ができました。トルコ語でコミュニケーションをとれるようになったのも、友達のおかげだと思います。言葉がわかるようになると、街中での人々の様子もよくわかるようになりました。

トルコは、日本のようにハイテクで便利なところではありません。でも、見知らぬ人でも声をかけ合い、お年寄りや女性、子どもを助けたり、お互いに物をゆずり合ったり、親切だと思う場面を何度も目にしました。

ですがそれは、トルコの人々にとってあたりまえのことであって、みんなが自然にしているということが、日本で育った私にとって、すごく新鮮でした。ときに「もういいよ」と思うほど手伝おうとしてくれる友達がいましたが、断ってもいやな顔はしません。「困ったことがあったら言ってね!」と明るく笑うのです。

日本の辞書で、「親切」という言葉の意味は、「相手の身になって、その人のために何かをすること」とあります。私はトルコでたくさんの親切を受けました。2年間トルコで生活し、今、日本に帰国して感じたことは、相手を思う気持ちの違いです。

私も含め、日本では「迷惑ではないだろうか?」「相手がどう思うだろうか?」と相手の気持ちを自分に当てはめて考えてしまうことが多いのではないかと。そのうち行動する機会を逃してしまうことにも……。思いやることは、日本の美しい心ですが、思いやりすぎず、トルコの友達のように、すぐに思ったことを行動して、たとえ断られても笑顔でいるような自分主体の方が、結果として誰かを助けることにつながる人が多いのではないかと思いました。